

10分で当たると「体験機」

「フェスタ」特別仕様

「パチンコ&パチスロフェスタ2014」に関して、4月25、26日のメイン会場（東京・ベルサール秋葉原）、26、27日の「ニコニコ超会議3」のサテライトブース（千葉・幕張メッセ）等での、それぞれの担当パートの進捗状況が報告された。今回のフェスタでは試打用の遊べる遊技機、懐かしの名機等が展示されるが、このうち試打用の遊べる遊技機を市場にある検定機と区別するため「体験機」と総称することを確認した。

これは、できるだけ多くの来場者にパチンコ・パチスロを楽しんでもらうために、1人あたりの試打時間を約10分間に制限する予定で、そのために試打機は10分程度で初当たり等が体験できるような特別仕様になっている。

このため、ファンに誤解を与えないようにPOP等で「通常のパチンコホールでは、同一機種でもこの遊技機のように短時間で当たりしない場合があります」という趣旨の注意書きを掲示し、展示コーナーは「体験機コーナー」と呼称する予定になっている。

強力動員体制も確認

また、人員配置の関係では、試算された必要人員として24日（開催前日）にはメイン会場の設営作業に60人、25日（業界関係者対象）にはメイン会場の受付・誘導等で38人及びサテライトブースでの設営作業に6人。

26日（一般ファン対象）にはメイン会場の受付等で54人及びサテライトブースでのファン対応等で21人。27日にはサテライトブースでのファン対応等で21人となっている。一連の作業・運営には遊技機委員会が中心となり、会員企業有志や他の委員会の協力を得て社員

や委員会メンバーがボランティアで活動する。このほか、フェスタで表彰する遊技機アワードの投票結果が報告された。

人材育成委員会

3月14日
本部会議室
出席委員等8人

メイン4事業を決める 「フォーラム」地方開催検討

新年度の事業計画を審議し、①人材育成フォーラム ②第8回遊技産業マネジメント・カレッジ ③店長・管理職能力開発講習 ④ぱちんこ産業合同説明会——の4事業を決めた。

人材育成フォーラムは企業人事担当の中堅クラスが対象。7、9月

平成26年度 店長・管理職能力開発講習 日程表

開催日	開催地	会場
平成26年 7月2日(水)	札幌	遊技会館
7月24日(木)	東京	日遊協本部会議室
9月3日(水)	札幌	ホテルエルムサッポロ
10月8日(水)	東京	日遊協本部会議室
10月17日(金)	大阪	難波市民学習センター(予定)
11月7日(金)	広島	RCC文化センター
平成27年 1月29日(木)	東京	日遊協本部会議室
2月19日(木)	名古屋	栄メンバーズオフィスビル
3月3日(火)	東京	日遊協本部会議室

流通勉強会

景品卸5社が出席

第4回流通勉強会が3月13日、本部会議室で開かれた。東京都・関東、近畿両支部から景品卸5社の代表、本部から庄司孝輝会長、福井章担当副会長、篠原弘志専務理事、茂木欣人風営法PTリーダーら計10人が出席した。賞品流通等の適正化について議論した。

広報調査委員会

応募総数は686編

エッセイ・絵手紙
第4回コンクール

3月19日
本部会議室
出席委員等13人

2014年度の事業計画を審議した。提出された事業計画は、①日遊協ホームページのリニューアル

②業界データベースの充実

③2014ファンアンケート調査

④広報誌編集のバックアップ

⑤遊技産業実態調査——の5件。こ

のうち遊技産業実態調査は、主要6団体で構成する遊技産業活性化委員会と連動しての活動となる予定だが、広報調査委員会としての具体的な活動内容はまだ固まっていない。

第4回エッセイ・絵手紙コンク

ールの応募数が報告された。応募総数は686編で、前回より103編少なかった。内訳は、エッセイ436編（一般253、業界183）、絵手紙250編（一般96、業界154）で、前回よりエッセイ



◀産業活性化で話し合うホール関係5団体の代表

ホール関係5団体代表者会議

「遊技産業活性化委員会」を承認

遊技機、PRの「WG」も発足へ

は21編、絵手紙は82編のそれぞれマイナスだった。3、4月の1、2次審査を経て、5月連休明けの最

ホール関係5団体代表者会議が3月17日、東京・飯田橋のホテルメトロポリタンエンドモントで開かれ、青松英和全日遊連理事長、庄司孝輝日遊協会長、松田高志同友会代表理事、千原行喜余暇進副会

長、斎藤周平P CSA副代表理事ら5団体28人が出席した。21世紀会が1月28日に発表した「宣言2014」に基づいて発足する「遊技産業活性化プロジェクト」につ

終審査委員会で入賞作品が決まり、6月5日の日遊協総会に合わせて日遊協ホームページで発表される。なお、同コンクールは前身の「論文・作文コンクール」から数えて通算13回開催され、一定の貢献を果たしたとして、第6回定例理事会で休止が決まった。

いて協議され、遊べる遊技機、ホール環境、PR活動の3本柱を推進する「遊技産業活性化委員会」の発足が承認された。（12ページに関連記事）

自民党の国会議員で構成する「次代に適した風営法を求める会」が発足しているが、日遊協は3月14日、ヒヤリングに出席し、内容について報告した。自工会の古宮重雄理事長、山田宗晴事務局長が臨時に出席し、貯玉・再プレーの新しい仕組みについて説明した。パチンコでは4円と1円など、パチスロでは20円と5円などの相互乗り入れを可能とするもので、客が望めば換算して

対応するシステムだ。現在、警察庁とガイドラインの制作で摺合せを行っており、4月には文章化する方向とのことだ。実際には、機器の対応に時間がかかるため、運用には半年から1年かかると説明があった。

「日遊協のご案内」を一新

4月1日に日遊協が一般社団法人に移行したことに伴い、パンフレット「日遊協のご案内」も同日から一新された。内容は、会長挨拶、警察庁保安課長の言葉、日遊協の紹介、組織、活動、入会方法等で構成されている。大きさは縦22・5cm、横10・7cm、表紙を含め10ページ。蛇腹折りのハンデイレインになっている。



パンフレットは、新規入会希望者を含め主として一般の方たちに日遊協を紹介する際に使われている。